



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第48巻第
9号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第48巻第9号). 泌尿器科紀要 2002, 48(9): 588-588

ISSUE DATE:

2002-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/114813>

RIGHT:

4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
6. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円、英文は6,500円、超過頁は1頁につき7,000円、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円、6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
7. 別冊：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編集後記

現在、病院の総括リスクマネージャーを仰せつかっている。昨今の医療事故多発を受けて、厚生労働省は「医療に係わる安全体制の確保」に力をいれており、各病院にリスクマネージャーや安全管理室を配置するように指導している。京都大学附属病院でも各診療科、中央部門、看護部門に総勢数十人のリスクマネージャーを置いており、月一回の会議を行いながら、病院の安全管理の機動部隊としての役割を担ってもらっている。

京大病院では毎月200から300のヒヤリハットレポートが出る。まだヒヤリハットの意味が充分定義されていないので、患者の苦情のようなものまで入っているが、出来るだけ多く報告してもらうという観点から特にきまりはもうけていない。このヒヤリハットレポートを参考にしてシステムとして変更すべき点は変更してきており、これが安全向上につながっていることはまぎれもない事実であり、これまでの安全対策において我々は怠慢のそしりを免れないように思う。しかし、システムを整備してもやはり事故は起こる。これからの問題は、事故が起こった時にどのような対応が必要かということである。医療事故は患者さんのみならず係わった医療従事者を不幸のどん底に落としこむ。それが過誤に相当するものかどうかには係わらず、心ある医療従事者は患者さんが受けた傷の大きさに心を痛ませ、自分の至らなさに打ちのめされる。ある意味では医療事故に係わった人はすべて被害者なのである。

アメリカでは医療事故に警察が直接介入することは無く、また医療事故に係わった患者さんのサポートシステムが運営されていると聞く。何度も医療過誤を引き起こす医療従事者はプロとしての集団から排除されるべきであるが、今の日本の制度が「国民が望む豊かな医療」につながるとは思えないのである。

(小川 修)

泌尿器科紀要 第48巻 第9号 2002年9月25日 印刷 2002年9月30日 発行
 発行 小川 修 顧問 吉田 修 発行所 泌尿器科紀要刊行会
 〒606-8392 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎301号 電話 (075) 752-0100
 FAX (075) 752-0190

http://web.kyoto-inet.or.jp/people/acta_uro/index.html
 印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入
